

2020年度【健康栄養学科学科健康スポーツ栄養専攻】カリキュラムマップ

学科学科健康スポーツ栄養専攻】ディプロマポリシー	1. 知識・理解	①健康運動実践指導者・栄養士に必要な知識を理解している。 ②スポーツと栄養の指導のための技術と指導力を身につけている。										
	2. 汎用的能力	③スポーツと栄養の指導者としてコミュニケーションを円滑に進める能力、指導者としてのリーダーシップを身につけている。 ④情報を収集、分析し、論理的な思考により、課題にあたることができる。										
	3. 態度・志向性	⑤建学の精神「真実心」を理解し、他者と共生しながら自立することができる。 ⑥健康運動実践指導者・栄養士の専門性を深めるため、生涯にわたって学び続ける自己学習力を身につけている。										
4. 統合的な学習経験と創造的思考力	⑦スポーツと栄養の指導を通して、健康の維持・増進のために地域社会に貢献できる力を身につけている。 ⑧健康科学に関わる幅広い知識や技能を学び、創造的な思考力を身につけている。											
学科学科	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号								
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
基礎ゼミ	大学生として主体的に自ら考え学ぶ能力を身につける	1. 大学で学ぶための基本的な力を身につける	20	◎					○			
		2. グループワークを通じて豊かな人間関係を形成する	40				○	◎				
		3. 卒業後の進路について考えることができる	40					○	◎			
生命科学の基礎	ヒトの身体機能を化学的・生物学的観点から理解する	1. 人体の構造と機能の基本を理解する	40	◎							○	
		2. 物質の基本的概念や構造、化学反応について理解する	30	◎								○
		3. 細胞の働き、ホルモンや神経、免疫による身体の調節作用について理解する	30	◎								○
専門職の連携(基礎)	医療福祉機関をはじめとした地域の生活者の支援に関わる職種役割を理解する	1. 取得を目指している資格は、他職種と連携し地域における包括的なヘルスケアシステムを担い、人の命を救う専門職としての資格であることを理解する	30	◎							○	
		2. 地域における包括的なヘルスケアシステムを担う他の専門職を理解する	35						○	◎		
		3. 他職種の視点を通して、将来についてのより明確な自己像を描けるようになる	35					◎	○			
専門職の連携(応用)	他職種との連携協働の実際を学習する専門職連携に関する発展的な科目であり、実践力のある専門職として就職するための総まとめ的な学習を行う	1. 他職種間での専門的かつ高次元なコミュニケーションを図れるようになる	30				◎	○				
		2. 実例を取り上げることで、より具体的で実践的な援助方法を理解する	35				◎				○	
		3. 専門職としての自己意識を高め、資格取得に向けての意欲向上を目指す	35						○	◎		
公衆衛生学Ⅰ	私たちの健康をめぐる現状について学ぶ	1. わが国における健康の現状を理解している	30	◎							○	
		2. 疫学の方法について理解している	35	◎	○							
		3. 主要疾患の疫学と予防対策について理解している	35	◎								○
公衆衛生学Ⅱ	衛生行政および環境について学ぶ	1. わが国における保健行政を理解している	30	◎							○	
		2. 環境と健康について理解している	35	◎								○
		3. 社会保障・社会福祉について理解している	35	◎								○
健康管理論	健康とは何か、健康に影響する要因を理解し、疾病予防のための知識、技術を身につける	1. 健康に影響する生活要因(食事・運動・休養など)を理解している	30								◎	○
		2. 食生活による疾病への影響を理解している	35								◎	○
		3. 健康を阻害するリスクが理解でき、予防策を提案できる	35								◎	○
健康評価実習	健康増進に関する測定を行い、コンピュータ処理する	1. 健康の評価方法を理解している	30	◎	○							
		2. 健康増進のための各種方法を理解している	35	◎			○					
		3. 測定結果の評価方法について理解している	35	◎	○							
人体の構造と生理Ⅰ	人体を構成する細胞、組織、器官や臓器の解剖学・生理学を学ぶ	1. 人体を構成する細胞、組織、器官について理解する	20	◎							○	
		2. 骨、筋、血液・リンパ系の構造と機能について理解する	40	◎								○
		3. 循環器、内分泌の構造と機能について理解する	40	◎								○
人体の構造と生理Ⅱ	人体を構成する器官や臓器の解剖学、生理学および運動力学を学ぶ	1. 消化器、泌尿器、生殖器の構造と機能について理解する	35	◎							○	
		2. 神経、感覚器の構造と機能について理解する	35	◎								○
		3. 運動に関わる身体の構造や機能が説明でき、運動力学の基本内容を理解している	30	◎	○							
生活習慣病論	生活習慣病の内容と身体活動や運動による予防の重要性について理解する	1. 生活習慣病(NCD)の定義や各病態について理解する	60	◎							○	
		2. 生活習慣病予防における身体活動や運動の重要性を理解する	30	◎								○
		3. 特定保健指導の制度と運動指導者の関わりについて理解する	10	◎								○
運動生理学	身体活動実施時の体内変化を知る	1. 運動とエネルギー代謝について理解している	40	◎							○	
		2. 健康増進と運動について理解している	30	◎								○
		3. トレーニングと栄養補給について理解している	30	◎								○
バイオメカニクス	身体運動における各種の動作の成り立ちを理解し、科学的に説明できるようにする	1. 身体運動を科学的に理解して説明できる	60	◎							○	
		2. 各種運動の仕組みを説明でき、それに基づいた指導が行える	30	◎	○							
		3. 動作分析法の基本を理解する	10	◎	○							
生化学Ⅰ	生体を構成している糖質、脂質、タンパク質の化学的性状とともに、それらの生体内での代謝機構と相互転換について理解する	1. 細胞の構造と機能を理解している	10	◎						○		
		2. 糖質、脂質、タンパク質の化学的性状を理解している	30	◎						○		
		3. 糖質、脂質、タンパク質の代謝機構を理解している	60	◎						○		
生化学Ⅱ	生体成分の性質、構造、生理的役割や栄養素の代謝、酵素などについて解説し、人体の構造や機能について分子レベルでの理解を深める	1. 核酸の構造と遺伝子の発現について理解している	30	◎					○			
		2. 酵素、ホルモンの構造と機能について理解している	40	◎					○			
		3. 免疫のしくみについて理解している	30	◎					○			

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の 学修活動の総和)全体を100とし たときの配分	ディプロマポリシーの項目番号									
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
人体の構造・生理実験	実験を通して、基礎的技術の習得のみならず、観察力と考察力を習得する	1. 組織・機関から細胞レベルの構造と機能を理解している	40	◎								○	
		2. 個体の調節機構と恒常性、栄養とその代謝について理解している	30	◎									○
		3. 知識と生理学的な変化を結び付けて考え、まとめる力を獲得する	30	○			◎						
運動生理学実習	運動負荷時の身体の変化を追跡する	1. 運動生理学について理解する	40	◎			○						
		2. 運動中の生体の機能について理解する	30	◎			○						
		3. 運動負荷時の生体の機能を測定し、運動の効用を解析する	30	◎			○						
生化学実験	生体成分の定性・定量分析を行うことにより、臨床生化学検査値について理解する	1. 生化学検査の手法について理解している	30	◎			○						
		2. 生化学検査値と食習慣・栄養状態の関係を理解している	40	◎			○						
		3. 生化学検査値と生活習慣病の関係を理解している	30	◎			○						
食品学Ⅰ	食品中の様々な構成成分について理解する	1. 食品の一般成分について種類、構造、性質を理解している	50	◎	○								
		2. 食品の嗜好成分について種類、構造、性質を理解している	30	◎	○								
		3. 食品の物性、食品成分の変化と相互作用について理解している	20	◎	○								
食品学Ⅱ	食品(原材料、加工品)の利用特性について理解する	1. 植物性食品、動物性食品の特性について理解している	40	◎	○								
		2. 発酵食品、油脂、調味料、嗜好飲料の特性について理解している	40	◎	○								
		3. 保健機能食品が健康に与える影響について理解している	20	◎					○				
食品衛生学	食の安全について理解する	1. 食品・食事の安全・衛生管理について理解している	30	◎	○								
		2. 食品に関連する法律や制度について理解している	35	◎	○								
		3. 病原性微生物・化学物質による汚染と防止について理解している	35	◎	○								
食品学実験Ⅰ	実験操作を修得するとともに、実験を通して食品成分への理解を深める	1. 実験に関わる基本的な操作、レポートの作成ができる	30	◎			○						
		2. 糖質、たんぱく質、脂質について実験を行うことができる	35	◎	○								
		3. ビタミン、ミネラルについて実験を行うことができる	35	◎	○								
食品学実験Ⅱ	実験操作を修得するとともに、実験を通して食品成分への理解を深める	1. 実験に関わる基本的な操作、レポートの作成ができる	30	○			◎						
		2. 嗜好品の品質、官能評価に関する実験を行うことができる	35	○			◎						
		3. 食品の加工特性や加工技術について理解している	35	○			◎						
食品衛生学実験	種々の実験手法を学ぶとともに、食品衛生に関する知識を習得する	1. 種々の化学実験手法を習得している	30	○			◎						
		2. 微生物実験の手法を習得している	30	○			◎						
		3. 実験結果より食の安全について考察できる能力を習得している	40	○			◎						
基礎栄養学Ⅰ	栄養学の全体像を把握しつつ、その本質や根拠をなす考え方を理解する	1. 栄養の概念と摂食の調節機構について理解している	20	◎								○	
		2. 糖質、脂質、タンパク質の栄養機能について理解している	40	◎								○	
		3. ビタミン、無機質、水・電解質の働きについて理解している	40	◎								○	
基礎栄養学Ⅱ	栄養と健康の関わりを理解するとともに、現代社会で大きな問題となっている「肥満」についての理解を深める	1. 消化・吸収の機構と栄養素の体内動態について理解している	40	◎								○	
		2. エネルギー代謝と肥満について理解している	40	◎								○	
		3. 遺伝子発現と栄養の関わりについて理解している	20	◎								○	
応用栄養学	母性、新生児・幼児期、成長期、高齢期の身体的特性、スポーツや環境変化における生理的適応を理解し、これらの栄養ケアを習得する。	1. 栄養マネジメントの概要を理解する	30	◎								○	
		2. 各ライフステージにおける栄養状態の評価や判定法、栄養ケアを理解する	40	○								◎	
		3. 成長や加齢、スポーツ時や環境変化に伴う栄養ケアを習得する	30	○								◎	
臨床栄養学Ⅰ	臨床栄養学の基礎を学ぶ	1. 傷病者を対象とした栄養マネジメントの概要を理解している	35	◎			○						
		2. 適切な栄養アセスメントと栄養補給法を理解している	35	◎			○						
		3. 疾患の病因と病態について理解している	30	◎			○						
臨床栄養学Ⅱ	傷病者の病態や栄養状態の特徴について学ぶ	1. 疾患の病因と病態について理解している	30	◎			○						
		2. 適切な栄養状態の評価、栄養補給法を理解している	35	◎			○						
		3. 傷病者に必要な栄養管理の実施方法について理解している	35	◎			○						
栄養学実験	実験を通して栄養素の消化・吸収および代謝機構についての理解を深める	1. 実験(定性および定量)に関わる種々の操作、レポートの作成ができる	30	◎							○		
		2. 酵素に関わる実験を行うことができる	30	◎			○						
		3. 栄養素の消化に関わる定量実験を行うことができる	40	◎			○						
応用栄養学実習	ライフステージやスポーツ時に応じた栄養マネジメントの実践を習得する	1. ライフステージごとの特性を理解する	30	◎								○	
		2. ライフステージごとの食事の実際を知り、栄養マネジメントを実践的に理解する	40	○	◎								
		3. スポーツ時の栄養アセスメントに基づいた具体的な栄養ケアを習得する	30		◎							○	
臨床栄養学実習	臨床栄養学に基づいた食事療法の実際を献立作成とともに修得する	1. 傷病者を対象とした栄養マネジメントができる	35	◎								○	
		2. 生活習慣病の病因と病態を理解した献立作成ができる	35	◎								○	
		3. 傷病者の栄養アセスメントの概要を理解した献立作成、調理、評価ができる	30		◎							○	

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号								
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
栄養教育論Ⅰ	栄養教育一連の流れの基本を学ぶ	1. 栄養教育の一連の流れ、マネジメントサイクルについて理解する	30	◎			○					
		2. 的確な情報収集の方法と分析法を習得し、具体的アセスメントの方法を理解する	40	○			◎					
		3. 行動科学理論とカウンセリング理論を理解し、それらの栄養教育への応用の重要性を理解する	30	○					◎			
栄養教育論Ⅱ	ライフスタイル・ステージにおける栄養教育の実践を学ぶ	1. 栄養教育の一連の流れ、マネジメントサイクルについて理解する	30	◎			○					
		2. ライフステージ・スタイルにあった適切な栄養指導ができる	50	◎			○					
		3. 食環境づくりにおける栄養教育の役割を理解する	20						◎		○	
公衆栄養学	個人または集団の健康維持増進及び疾病予防を目的として、人間栄養学の実践に必要な理論と方法を学ぶ	1. 公衆栄養アセスメントの目的と地域社会の実態把握のための情報収集法を理解している	40	◎			○					
		2. 公衆栄養マネジメントの枠組み、公衆栄養プログラムの展開について理解している	40	◎			○					
		3. 我が国および諸外国の健康問題や栄養政策について理解している	20						◎		○	
栄養教育論実習	個別栄養指導の実際の展開を学ぶ	1. 的確な栄養アセスメントから問題を抽出し、その構造分析から教育目標が設定できる	40	○			◎					
		2. 認知行動療法のセルフガイダンス法の概念を理解する	20	○	◎							
		3. カウンセリングの基本と、栄養カウンセラーの基本を理解する	40	○	◎							
公衆栄養学実習	食事調査方法の技術と公衆栄養マネジメントの組み立てを実習を通して学ぶ	1. 代表的な食事調査法について理解している	20	◎	○							
		2. 既存資料を用いたデータをもとに地域の課題分析ができる	40	○			◎					
		3. 公衆栄養マネジメントの枠組みが組み立てられる	40	○					○			
調理学	調理を科学的に理解する	1. おいしさの評価や味の相互作用、調理による食品成分の変化を把握する	40	◎								
		2. 調理器具と調理操作を理解する	30	◎								
		3. 食事設計の基礎知識を学ぶ	30	◎								
給食マネジメント論	給食システムを経営および各マネジメント論から理解する	1. 経営管理について、経営資源のヒト・モノ・カネのマネジメントを理解している	40	◎						○		
		2. 給食管理について栄養食事管理、食材料管理、衛生・安全管理、生産管理を理解している	40	◎	○							
		3. 給食システム全体を、給食の品質と喫食者満足から理解している	20	◎							○	
調理実習基礎	調理技術の基礎と食品成分表の活用を学ぶ	1. 調理器具の使用方法和基本の調理操作を習得する	40	◎								
		2. 様式別の基本的な調理を習得している	30	◎								
		3. 食品成分表を活用できる	30	◎								
調理実習応用	調理技術の応用能力を養う	1. 複雑な調理技術を習得している	60	◎						○		
		2. 新たに市場に出回っている食材の扱い方を把握している	20		○							◎
		3. 簡単な加工食品を作ることができる	20		◎						○	
食生活と調理実習	多様な食生活に応じた調理をする	1. 多様な食文化を学び、行食事や郷土料理・様々な国の調理ができる	30	◎								
		2. ライフステージに応じた食事を学んで調理できる	30		◎							
		3. 食事計画論に基づく献立作成と調理指導ができる	40		◎							
給食マネジメント実習Ⅰ	給食業務におけるマネジメントの大切さを実習により学習する	1. グループ討議を通して発言する力、聞く力、まとめ上げる力を獲得する	30		◎	○						
		2. 大量調理及び販売の経験を通して顧客満足を得ることの難しさや大切さを学び、栄養士としての視点を喫食側に置く姿勢を獲得する	30	◎						○		
		3. グループでの課題発見・検討・解決過程で、グループをまとめるマネジメントの効力や必要性を理解する	40									
給食マネジメント実習Ⅱ	給食システムの実践学習	1. 給食の各管理論について実践的に理解する	40	◎	○							
		2. 喫食者に対するサービスや給食の役割について理解する	20							◎	○	
		3. 給食をシステムとして総合的に理解し、実践できる力を養う	40	○						◎		
臨地実習	栄養士・管理栄養士が活躍する給食施設での実習を通して給食運営の実務を体得する		100	◎					○			
健康スポーツ概論	健康と運動やスポーツの関わりについて概観する	1. 健康の概念について理解する	35	◎								○
		2. 運動やスポーツの概念について理解する	35	◎								○
		3. 運動やスポーツの健康の保持・増進への効果について理解する	30	◎								○
生涯スポーツ論	生涯学習の中での運動やスポーツの役割について学ぶ	1. 生涯スポーツの概念について理解する	35	◎								○
		2. 生涯スポーツの背景について理解する	35	◎								○
		3. 生涯スポーツを支えるシステムについて理解する	30	◎							○	
健康づくりと運動	心身の健康の維持・増進に役立つ運動やスポーツ活動の条件を理解する	1. トレーニングの原則について理解する	20	○	◎							
		2. 運動処方の基本について理解する	40	○	◎							
		3. 対象者の状況に応じた運動処方を提案できる	40		◎						○	
スポーツ医学	健康の保持・増進や競技力向上を科学的に捉える上で医学的分野についての知識を身につける	1. 人体を構造・機能を理解する	20	◎								○
		2. 機能障害となる様々な異常を知る	40	◎	○							
		3. 医学の基本的な知識を身につける	40	◎								○

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 到 達 目 標	配 分 学習量(授業内外の 学修活動の総和)全体を100とし たときの配分	ディプロマポリシーの項目番号							
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
安全管理と救急処置	運動やスポーツを安全に実施するための知識、運動障害の予防と救急処置について学ぶ	1. メディカルチェックや運動・スポーツ時の安全管理について理解する	30	○						◎	
		2. スポーツ障害を予防するための方法を理解できる	35	○						◎	
		3. スポーツ障害に対する応急処置や対処法が理解でき、実践できる	35	○						◎	
スポーツ心理学	スポーツに関わる人々の心理について理解する	1. スポーツに関わる人の心理について理解する	40	◎							○
		2. スポーツに関わるメンタルトレーニングについて理解する	40		◎						○
		3. スポーツを愛好する心を育む	20	○					◎		
スポーツ社会学	社会におけるスポーツの役割について理解する	1. スポーツの役割について理解する	40	◎							○
		2. スポーツの必要性について理解する	30	◎							○
		3. 社会におけるスポーツの立場を理解する	30	◎							○
アダプテッドスポーツ論	障がい者のスポーツ活動のより良い支援が行える力を身につける	1. 障がい者スポーツやアダプテッドスポーツの基本的概念を理解する	40	◎	○						
		2. 障がい者スポーツの意義や障がい者スポーツ指導員の役割を理解する	30	◎	○						
		3. 障がい者について理解し、その人に応じたスポーツ活動の支援を行える	30	○	◎						
体育・スポーツ原理	体育・スポーツの問題を多様な観点から考えられる力を身につける	1. 体育・スポーツの存在意義について理解する	40	◎	○						
		2. 体育・スポーツで論じられているトピックを理解する	30	◎	○						
		3. 体育・スポーツにおける指導者の役割を理解する	30		◎						○
体育・スポーツ史	人間が体育・スポーツをどのように捉えて実践してきたか、体育・スポーツが社会の変化とともにどのように変化してきたか理解する	1. 体育・スポーツの時代による意味や役割の変化を理解する	40	◎							○
		2. オリンピックに関する諸問題を歴史的な観点から理解する	30	◎							○
		3. 体育と戦争との関わりを歴史的な観点から理解する	30	◎							○
学校保健	学校における保健の目的・内容など、学校保健活動に必要な基礎的知識を身につける	1. 学校における保健の目的を理解する	40	◎	○						
		2. 学校保健活動の実際を理解する	30	○							◎
		3. 児童生徒の健康問題とその対応を理解する	30				◎				○
トレーニング論	健康と体力、運動との関わりについて理解し、さまざまな体力や運動能力を向上させるために有効なトレーニングの基礎理論と方法について学ぶ	1. 健康と体力、運動との関わりについて理解する	30	◎	○						
		2. トレーニングの基礎理論と方法について理解する	40	○	◎						
		3. 指導対象者に応じた適切なトレーニング方法を提案できる	30		◎	○					
生涯スポーツ実習	生涯スポーツの有用性を理解し実践する	1. 生涯スポーツの概念について理解する	30		◎						○
		2. 生涯におけるスポーツへの関わり方を理解している	30		◎						○
		3. ニュースポーツが実践できる	40		◎						○
コーチング論	コーチングの基本的な考え方やスキルを身につけ、セルフコントロールや健康運動指導に生かせるようにする	1. 健康を維持・増進するための運動(スポーツ)の役割・指導技術を身につける	30		◎	◎					○
		2. 指導者として対象者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を身につける	40		○	◎					
		3. 運動(スポーツ)指導を通して、健康づくりで地域社会に貢献できる力を身につける	30						○		◎
スポーツプログラム演習	運動プログラムの基本を理解し、各生活習慣病に対して適切な運動療法をプログラムできる力を身につける	1. 運動プログラムの基本を理解する	20	◎	○						
		2. 生活習慣病に対して適切な運動療法をプログラムできる	40	◎	○						
		3. 高齢者の介護予防のための運動を指導できる	40		◎	○					
スポーツマネジメント論	スポーツに関わっているビジネスについて学ぶ	1. スポーツマネジメントの基礎的的概念について理解する	40	◎							○
		2. マネジメントの代表的な理論について理解する	30	◎							○
		3. 実際のスポーツ場面におけるマネジメントについて理解する	30	◎			○				
健康スポーツ指導法Ⅰ	健康づくりのための運動の基礎と指導法を習得する	1. 健康づくりのための運動指導に必要な能力について理解する	40	◎	○						
		2. ウォームアップ・クールダウンについて理解し、その方法を身につける	30	○	◎						
		3. ウォーキング・ジョギングの特性や効果について理解した指導ができる	30	○	◎						
健康スポーツ指導法Ⅱ	エアロビックダンスや自体重を用いたレジスタンス運動の動作の基本と応用、指導技術の習得を目指す	1. エアロビックダンスの特性を理解し、動作の基本を身につける	40	○	◎						
		2. エアロビックダンスの基本的な動作を指導できる	30		◎	○					
		3. 自体重を用いたレジスタンス運動を指導できる	30		◎	○					
健康スポーツ指導法Ⅲ (体づくり運動・器械運動)	体づくり運動や器械運動の基礎的スキルや指導法を身につける	1. 自らからだを動かして、体づくり運動について理解する	35	○	◎						
		2. 器械運動の各種目の技術的ポイントを理解し、実際に示範できる	35	○	◎						
		3. 器械運動の各種目の特性について説明し、安全に配慮した指導ができる	30		◎	○					
健康スポーツ指導法Ⅳ (水泳・水中運動)	水泳・水中運動の各種目の基礎的スキルと指導法について実践を通して習得する	1. 各種目を指導する上での技術的要点を理解して示範できる	40	○	◎						
		2. 各種目を安全に配慮して指導できる	30		◎	○					
		3. 年齢や体力、目的に応じたプログラムを作成して実施できる	30	○	◎						
健康スポーツ指導法Ⅴ (ダンス)	ダンスの表現技法を学び、専門的な技術と知識を身につけ、ダンスの指導ができるようになる	1. ダンスの実践経験を踏まえ、ダンスに対する認識を深める	40	◎	○						
		2. ダンスの個性的な表現や作品の創作ができる	30		◎		○				
		3. ダンス指導に必要な知識と経験を身につける	30	○	◎						

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 到 達 目 標	配 分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号								
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
健康スポーツ指導法VI (陸上競技)	陸上競技の各種目の基礎的技術、指導法、審判法について、実践を通して身につける	1. 陸上競技の各種目の技術的なポイントを理解する	30	◎	○							
		2. 陸上競技の各種目を実際に示範できる	40	○	◎							
		3. 安全に配慮してそれぞれの種目を実施できる	30		◎	○						
健康スポーツ指導法 (ゴール型・ベースボール型球技)	ゴール型球技とベースボール型球技の技術や指導法の基礎的事項について実践を通して習得する	1. ゴール型およびベースボール型球技の特性を理解する	30	◎	○							
		2. 各種目の技術や戦術の要点を理解して示範することができる	40	○	◎							
		3. 安全に配慮して各種目の指導ができる	30		◎	○						
健康スポーツ指導法VII (ネット型球技)	ネット型スポーツの競技特性とルールを理解し、ゲームができる個人技術や作戦を組み立ててゲームを行える知識を身につける	1. ネット型スポーツの特徴とルールを理解し、基礎的な技術を身につける	40	◎	○							
		2. チームやダブルスで作戦を立ててゲームを行うことができる	30		◎	○						
		3. ルールやチームワークを理解し、全員で楽しむことができる	30		◎			○				
健康スポーツ指導法IX (柔道)	柔道の運動特性を理解し、技術や指導法の基本を身につける	1. 武道の伝統的な行動の仕方や精神を理解する	30	◎	○							
		2. 柔道の基本的な技術を身につける	40	○	◎							
		3. 柔道の審判法や適切な指導方法を身につける	30	○	◎							
健康スポーツ指導法X (野外活動)	スノースポーツの基礎的な技術や指導法を実践を通して身につける	1. スノースポーツの特徴について理解する	20	◎	○							
		2. 各種目の技術的なポイントを理解して示範できる	40	○	◎							
		3. 各種目の特性を理解し、安全に配慮した指導ができる	40		◎	○						
インストラクター現場実習	運動指導者としての在り方を学び、対象者に応じた効果的な指導ができる力を身につける	1. 運動指導者の役割や心得を理解する	20	◎	○							
		2. 運動指導現場の課題を理解する	40	◎	○							
		3. 指導対象者に応じた運動の仕方を提案し、適切に指導できる	40		◎	○						
アダプテッドスポーツ指導法	障がい者スポーツや障害を深く理解し、実際に対象者に対する支援ができる技術や態度を身につける	1. 障がい者スポーツや障害に対する理解を深める	40	◎	○							
		2. 障がい者スポーツの各種目のルールを理解し、基本的な技術を身につける	30	○	◎							
		3. 対象者に応じた指導法や支援方法を理解する	30		◎	○						
スポーツ栄養学Ⅰ	健康増進のためのスポーツ栄養を習得する	1. 運動時のエネルギー代謝を理解する	40	◎	○							
		2. 運動による栄養素の代謝への影響を理解する	30	◎	○							
		3. 運動のメリットとデメリットを習得する	30	◎							○	
スポーツ栄養学Ⅱ	アスリートのためのスポーツ栄養を習得する	1. パワー系スポーツと持久力系スポーツを理解する	30	○	◎							
		2. ウェイトコントロール、筋肉の合成、貧血の予防、グリコーゲン補充など運動時の栄養必要量を理解する	30	○	◎							
		3. トレーニング時における効果的な栄養補給法を習得する	40	○	◎							
スポーツ栄養学実習	スポーツマンの栄養指導を実践する	1. スポーツ栄養の基礎知識について理解する	40		◎							○
		2. スポーツと栄養との関わりについて理解する	30		◎							○
		3. スポーツ選手の食事アドバイスが実践できる	30		◎							○
栄養・運動指導実習	メディカルチェック、健康診断結果の捉え方を学び、生活習慣病に有効な運動プログラムを実践する	1. 健康に必要な栄養・運動・休養の3要素について理解している	40		◎							○
		2. メディカルチェックについて理解している	30		◎							○
		3. 各生活習慣病に応じた運動プログラムについて理解している	30		◎							○
フードコーディネーター論	フードコーディネーターの基本～日常生活からフードビジネスまで～	1. テーブルウエアの知識とテーブルセッティングの方法を習得する	30						○			◎
		2. フードマネジメントの概念を理解する	35						○			◎
		3. 食環境とフードシステムを学ぶ	35							○		◎
食マーケティング論	食品の消費と流通について理解する	1. 食生活の変遷について理解している。	30	◎								○
		2. フードマーケティングと食品流通について理解している	35				○					◎
		3. 食品市場と食品流通、食品消費について理解している	35				○					◎
食品の評価・鑑別	食品の評価・鑑別方法を理解する	1. 食品の評価方法の考え方を身につけている	50	○								◎
		2. 食に関する種々の情報に対して公正な評価・判断を行うことができる	50	○								◎
フードスペシャリスト論	フードスペシャリストの意義と要求される専門知識を理解する	1. フードスペシャリスト資格の意義について理解している	30							○		◎
		2. 資格に必要とされる知識や技能の概要を理解している	35				○					◎
		3. フードスペシャリストの役割について考えることができる	35				○					◎
製菓実習	製菓、デザートづくりの基本的知識や技術を学ぶ	1. 菓子、デザート作りの基本的な技術を修得している	50		◎							○
		2. 菓子、デザートのメニューを考えることができる	50		◎							○
栄養教諭のための理論と実践	栄養教諭の役割及び職務内容について学ぶ	1. 幼児、児童及び生徒の栄養に係わる課題について理解できる	30				◎					
		2. 食生活に関する歴史及び文化的事項を理解している	35	○								
		3. 食に関する指導の方法について理解している	35	○								◎

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号									
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
保健体育科指導法Ⅰ	高等学校における保健体育科の意義や目標を理解し、保健体育科に関する基礎的知識を身につける	1. 高等学校保健体育科の意義や目標を理解する	35	◎								○	
		2. 高等学校保健体育科の具体的な内容について理解する	35	◎									○
		3. 高等学校保健体育科教員の役割を理解する	30	◎		○							
保健体育科指導法Ⅱ	保健体育科の授業づくり求められる基礎的な知識や指導方法について理解する	1. 保健体育科の授業の各領域の指導の理論や方法を理解する	30	◎	○								
		2. 学習指導計画の作成の基本について理解する	35	◎	○								
		3. マイクロティーチングで小グループへの指導ができる	35		◎	○							
保健体育科指導法Ⅲ	保健体育科の授業を効果的に展開するために求められる専門的な知識と指導技能を身につける	1. 保健体育科の授業の各領域の指導の理論や方法を深く理解する	30	◎	○								
		2. 保健体育科の授業の各領域の基本的な指導が行える	35		◎	○							
		3. 保健体育科の授業の各領域を工夫して展開できる	35		○		◎						
保健体育科指導法Ⅳ	中学校における保健体育科の意義や目標を理解し、効果的な授業展開できる専門的な知識や指導技能を身につける	1. 中学校保健体育科の意義や目標を理解する	40	◎	○								
		2. 中学校保健体育科の具体的な内容について理解する	30	◎	○								
		3. 中学校保健体育科の授業の各領域を工夫して展開できる	30		○		◎						
卒業研究	研究方法の基本を学ぶ	1. 課題発見からテーマ設定、データの取得および分析、考察までの研究の一連の流れを理解している	50					◎				○	
		2. 研究成果を論文としてまとめるとともに口頭で発表できる能力を身につける	50					◎				○	
教職論	教職という仕事の理解と技能を深める	1. 教職という仕事を多面的に理解している	40	◎								○	
		2. 専門的な能力を築きつつ、生徒たちの学びをデザインできる実践的スキルを備える	30			◎	○						
		3. 教職の専門性に裏打ちされて、総合的に展開できる実践的指導力を備える	30	○	◎								
教育原理	教育の理論と実践の関係を把握する	1. 教育の社会的意義と目的を理解する	40	◎								○	
		2. 教育の思想と歴史を理解する	30	◎								○	
		3. 初等教育制度・中等教育制度・高等教育制度の社会的機能を理解する	30	◎								○	
教育心理学	幼児・児童及び生徒の心身の発達・学習の過程を理解し、教育現場に生かせるよう取得する。	1. 教育心理学で得られた様々な知見を概観し、相互の理解を深める	40	◎				○					
		2. 教育心理学的に授業評価をできるようにする	30			◎		○					
		3. その授業評価に基づき、授業計画・授業内容・授業方法について改善策を提案できるようにする	30		○		◎						
教育行政学	教育に関する社会的、制度的または経営的事項について学ぶ	1. 教育に関する社会的、制度的または経営的事項を理解し習得する	40	◎								○	
		2. 教育制度、教育政策、学校経営に関する理解を深める	40	◎								○	
		3. 教育に関するさまざまな問題について深く考えることができるようになる	20				◎					○	
人権教育	人権に関する基本的な考え方や、さまざまな人権問題について学び、理解し習得する。	1. さまざまな人権問題に関する知識を身につける	40	◎								○	
		2. 人権に関する基本的な考え方を学ぶ	40	◎								○	
		3. 人権を自らの問題として認識し、考えるようになる	20				◎					○	
教育課程論	教育課程の意義および編成の方法について学ぶ	1. 教育課程論・カリキュラム論および学力論について、主要な論点や基礎的知識を理解する	40	◎	○								
		2. 授業づくりを行う上で必要な目標・内容・方法・評価について基本となる仕組みを知り、教育課程をもとに授業がどのように成立するかを理解する	40	◎	○								
		3. これから求められる教育課程について各自が問い直す視点を持つ	20				◎					○	
道徳教育の理論と指導法	道徳の基本問題の修得と学校教育における道徳指導の展開を理解する	1. 日本と西欧における道徳教育の歴史を修得する	40	◎				○					
		2. 学校教育における道徳教育の目標と内容を統一的に理解できる	40	◎				○					
		3. 実践的に解決したい問題にも、解決方法を模索し創意する志向性を持ち続ける	20				◎					○	
特別活動及び総合的な学習の時間	人間形成をめざす特別活動の指導法について習熟する	1. 特別活動の意義と今日求められる課題を認識し、教育方法を学ぶ	30	◎	○								
		2. 特別活動の指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を行うことができる	35		◎		○						
		3. 模擬授業を行う経験を通して、授業実践のための準備や、授業の場での教育方法を具体的に実践的に学ぶ	35		○		◎						
教育方法論	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論および方法を理解する	1. 教育方法に関する理論に基づき、授業研究を行う	35		○		◎						
		2. 教育方法に関する理論に基づき、教材研究を行う	35		○		◎						
		3. 学習教材を計画・開発・評価するプロジェクトに取り組む	30		○		◎						
生徒指導及び進路指導論	生徒指導・進路指導の理論および方法について理解し習得する	1. 個性を持つ生徒一人ひとりを理解するための基礎を学ぶ	35	◎				○					
		2. 教師の専門職性をふまへながら生徒に対する理解および援助の方法について考える	35			◎						○	
		3. 進路指導の理論と方法を知り、キャリア教育の実践について提案できるようになる	30		◎		○						
教育相談	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論および方法を理解する	1. 教育相談における技法を知る	40	○	◎								
		2. 教育相談への理解を深める	40	◎	○								
		3. 学校で教員となった場合どのように生徒・保護者と関わってゆかについて各自が積極的に考えてゆけるようになる	20				◎					○	
教職実践演習(栄養教諭)	栄養教諭として求められる資質能力、知識や技能をさらに伸長し、次世代の教職を担う人材として十分な能力を身につける	1. 栄養教諭の職務・役割・使命を深く理解し、専門性を活かした指導ができる	40		◎							○	
		2. 栄養教諭としての職責や義務の自覚に基づき、他の教職員や地域・家庭との連携・協力のあり方を修得する	30			○					◎		
		3. 求められる教員像を明確化すると同時に、教育に対する使命感や情熱を持つことができる	30				○			◎			

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号									
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
教職実践演習(中・高)	教員として求められるの資質能力、知識や技能をさらに伸長し、次世代の教職を担う人材として十分な能力を身につける	1. 教職の意義や教員の役割、職務内容について深く理解する	35	◎	○								
		2. 学校を取り巻く諸問題について教員として適切な対処ができる	35		○	◎							
		3. 効果的に教科指導するための工夫ができる	30		◎	○							
事前・事後指導	教育実習の事前指導と事後指導	1. 教育実習の意義と心構えについて基本的に理解する	40	◎								○	
		2. 教科指導の方法・技術について基礎的に習得する	30		◎	○							
		3. 生徒指導・特別活動・道徳指導について実践的に修得する	30		◎							○	
栄養教育実習	学校現場における実習を通じ、栄養教諭の職務・使命・役割を体得する	1. 栄養教諭の職務・使命・役割を理解し、食に関する指導の実践を体得する	100		○							◎	
教育実習(中・高)Ⅰ	高等学校での教育実践によって、教職の意義、教員の役割と職務を再認識し、教員としての資質能力を高める	1. 学校現場で教育実践できる	60		◎	○							
		2. 教職の意義、教員の役割と職務について理解する	20	◎								○	
		3. 教育実践の体験に基づき、自らの教職への適性や進路について考える	20								○	◎	
教育実習(中・高)Ⅱ	中学校での教育実践によって教育現場の課題を認識し、自らが教員としてどのように解決に取り組むかを考える	1. 中学校での教育実践を通して、現場での課題を理解する	40				◎					○	
		2. 教科指導や生徒指導、学級経営に関わる実践的能力を身につける	40		◎		○						
		3. 自らの教員としての資質能力を省みる	20							○	◎		
健康総合演習A	健康づくりを支える運動・スポーツ指導者としての専門的知識を深め、指導実践力を高める	1. 運動・スポーツ指導者に求められる専門的知識を習得する	40	◎									○
		2. 対象者に応じた運動・スポーツ指導を行うことができる	40		◎	○							
		3. 対象者に対して適切なコミュニケーションを図ることができる	20		○	◎							
健康総合演習B	健康づくりを支える運動・スポーツ指導者や栄養士としての専門的知識をさらに深める	1. 指導に必要とされる専門的知識を習得する	40	◎									○
		2. 対象者に応じて効果的な指導を行うことができる	30		◎	○							
		3. 対象者の状況に応じて適切に対処できる	30		○		◎						